

14. 富士山の魅力を高める山菜・きのこの発掘と活用

静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター

当県の富士山周辺に広がる森林地帯には、コシアブラ、ハリギリなど多くの山菜やきのこ（特用林産物）資源が存在すると共に、その標高差や広大なフィールドを活かして、極めて多種多様な特用林産物を生産する力があると考えられています。そこで、それらを掘り起こし、持続的に生産・活用できれば、森林・林業の活性化につながるものと考えています。しかしながら、こうした自然のものはあまり知られていなかったり、得られる時期や量に限りがあるなどから十分に活用されていないのが現状です。

一方、富士山静岡空港の開港や第二東名高速道路の開通など、富士山を取り巻く社会状況は変化しており、今後、県内外からの訪問客の一層の増加が予想され、富士山の地域資源を活用し、環境と調和した産業振興を図ることが行政施策上も重要な課題（政策課題）となっています。

そこで、県（産業部）では、平成 20 年 8 月に、公設試験研究機関や大学、NPO を対象に、戦略課題研究「富士山」の公募を行いました。この研究の特徴は、政策課題に対応した幅広い分野の研究者等が結集して、実効ある研究成果を得ようとするものです。

当センターでは山菜による森林・林業の活性化に着目し、山菜研究で著名な東京農業大学杉浦孝蔵名誉教授、並びに多くの地域物産品の開発と併せた地域振興を手掛けている日本大学国際関係学部金谷尚知教授の協力を得て当該研究に採択され、平成 20 年 11 月から平成 22 年 3 月までの約 1 年半の期間で研究を行うことになりました。

具体的な研究内容の概要は以下の 3 点です。

- 1 富士山の山菜・きのこ資源の把握と増殖技術の開発（味や香り食感等の優れた優良品種系統の選抜、組織培養、さし木、分根等の手法による）を行います。
- 2 富士山の魅力を高める付加価値の高い山菜・きのこについて、地域に伝わる独特の料理方法や食べ方等を掘り起こすと共に、その林内栽培技術並びに供給方法等の提案を行います。
- 3 山菜・きのこを活用（加工）して、話題性のある新しい特産品を開発・販売するための手法の検討並びに提案を行います。

また、森林・林業、地域産業の活性化のためには、地元住民、行政、NPO 等との連携づくりが重要であり、様々な調査・開発と併せた体制作りも進めています。

現状では、研究対象とする山菜やきのこ等の活用は、森林・林業振興上ほんの小さな分野ですが、このような取り組みを重ね、その成果が地域で活用されて、従来のスギ・ヒノキ林業に集約された林業経営の抱える課題が少しでも払拭されて、森林・林業環境の改善に貢献できるよう、試験研究に努めたいと考えています。